

ソフトボールにおけるポジション別性格特性の検討

Study about personality trait according to position of softball

1K06A251

指導教員 主査 山崎勝男先生

山下 友香

副査 正木宏明先生

【序論】

著者は15年間ソフトボール競技に携わり、さまざまなポジションを経験していく中で早い時期にピッチャーを経験した。その経験により、「ピッチャーらしい性格」と揶揄されることが徐々に増え、ソフトボールを指導する環境でもその言葉を耳にした。「ピッチャーらしい性格」とは一般にマイナス面のイメージが強いが、「キャッチャーらしい性格」はプラス面のイメージが強い。また「キャプテンらしい性格」とは、役職柄リーダーシップやチーム全体をまとめる能力を求められるイメージが強い。しかしながら、このようなイメージ上の性格と、本来の選手の性格は異なる可能性もある。そのような場合には、上述の通りのイメージによる性格により、そのポジションの選手が、イメージと本来の性格の乖離に苦しみ、競技に関して本来の能力発揮に妨げとなる可能性も考えられる。

【先行研究と目的】

本調査で的に行っているソフトボール競技でポジション別の性格特性を調査している先行研究がある(武藤他, 1971)。その先行研究は、全日本高等学校ソフトボール選手権大会に参加した高等学校55校計495名を対象にピッチャー・キャッチャー・内野手・外野手の4タイプに分け検討していた。その結果、ポジション別に性格特性があるといわれている。

しかし、著者はポジション別に性格特性は存在せず、前述した「らしい性格」というのはチームによって異なり、「らしい性格」と

いう先入観は前述したイメージ通りという仮説を立てた。そして、ポジションに対する周囲のイメージと実際の性格特性を検討し、仮説の検証を本調査の目的とした。

【方法】

2009年9月、全国大学ソフトボール選手権大会に出場した女子ソフトボール選手159名を対象にDIPCA.3・NEO-FFI(24問抜粋)・Y-G性格検査(30問抜粋)・イメージ調査(キャプテン・ピッチャー・キャッチャーを対象)の調査を実施し、全大学と各大学別にキャプテン・ピッチャー・キャッチャーのポジション別のイメージと実際の性格特性を探る。

【結果及び考察】

DIPCA.3・NEO-FFI(24問抜粋)・Y-G性格検査(30問抜粋)・イメージ調査(キャプテン・ピッチャー・キャッチャーを対象)によって調査することのできる10の尺度を全大学の平均、大学別に検証した。その結果、全大学の平均の結果からキャプテン・ピッチャー・キャッチャーに対するイメージに先入観があることが分かったが、大学別に見ると大学によってキャプテン・ピッチャー・キャッチャーそれぞれに性格特性があることが分かった。さらに、自信・協調性・支配性・攻撃性の4項目に絞った全大学と各大学別のイメージをt検定し、実際の性格特性との比較をした結果、ピッチャーとキャッチャーの関係について4つの性格特性から4タイプに分類でき、ピッチャーとキャッチャーは互いに補

い合っているということが分かった。

【総評】

どの大学においてもキャプテン・ピッチャー・キャッチャーのポジション別に性格特性があるという先入観を持っていたが、キャプテンの実際の性格特性に関しては概ねそのイメージ通りであった。その理由として、キャプテンに求められている役割、性格特性はどの大学も変わらず共通の認識のためと考えられる。しかし、ピッチャーとキャッチャーに関しては、実際の性格特性は大学別にそれぞれ違い、イメージ通りとは限らなかった。従って本調査結果より、試合で勝つためにピッチャーとキャッチャーにとっては「らしい性格」よりも、互いに良いバッテリー関係を築くことが重要となることが示唆された。